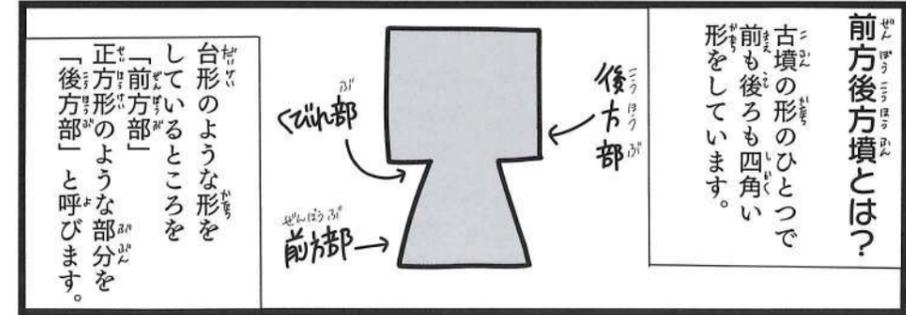


ヨスミナミさんの漫画コラム連載の3回目は、前方後方墳についてのお話です。

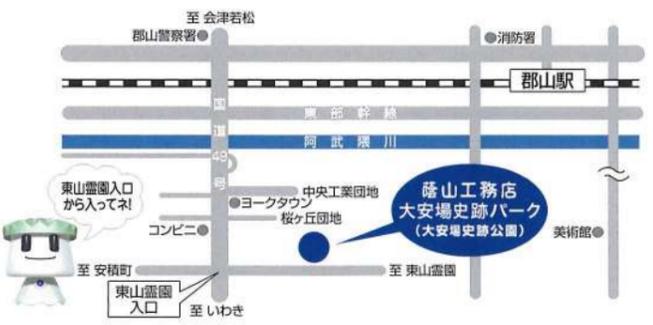


©ヨスミナミ

蔭山工務店 大安場史跡パーク  
大安場史跡公園 (公益財団法人郡山市文化・学び振興公社)

住所: 福島県郡山市田村町大善寺宇大安場 160番地  
電話: 024-965-1088 FAX: 024-965-1090  
Mail: oyasuba@bunka-manabi.or.jp  
休館日: 月曜日 (月曜日が祝日の時は次の平日)  
※公園は年中無休です。

ウェブサイトもチェック!



vol. 68 蔭山工務店 大安場史跡パーク (大安場史跡公園)

# まるさんかくしかく

タイトルはまるい石罫、さんかくは古墳の前方部しかくは後方部を表現しています。

## 令和7年度を振り返って

この3月で令和7年度も終わりです。多くの方に蔭山工務店大安場史跡パークをご利用いただき、心より感謝申し上げます。私ども職員一同も、充実した一年を過ごすことができました。ありがとうございます。今年度は、春・秋の古墳まつり、企画展や講演会、体験を中心とした各種イベントなど、約30の催し物を開催し、学校や各種団体、個人で越しのお客様のご案内や体験のサポートなどを行いました。

### 古墳まつり

恒例の勾玉づくりやワークショップには、お子様からご年配の方までご参加いただきました。小中学生を対象としたゲーム大会では、ネコ頭形の土製品「じよもにゃん」にちなんだ競技会やクイズ大会を行い、参加者・観覧者ともに楽しみました。秋のまつりでは、古墳シンガー「まりこふん」さんのトーク&ライブを開催しました。ライブは数年来の恒例ですが、トークは初めての試みでした。



古墳まつり秋 まりこふん トーク&ライブ



企画展「安積町の歴史」

### 企画展・講演会

郡山市歴史情報博物館で開催した「発掘された日本列島2025」展に伴う地域展「郡山盆地の前期古墳」を、特別企画展として行いました。市内各地域を紹介する恒例の企画展では、「安積町の歴史」と題して、郡山市の南部に位置する安積町の遺跡を取り上げました。国立歴史民俗博物館の上野祥史、東京国立博物館の河野正訓、岐阜聖徳学園大学の中井正幸の各先生による講演会は、いずれも興味深い内容でした。

### 各種イベント

土器づくりや陶器づくりでは、皆さんの素敵な作品を、エントランスホールに飾らせていただきました。「おやすばグルメ体験」や「古墳の里の草木染め」は、ご参加いただいた方々に楽しんでいただくとともに、リハーサルや事前の準備を進める中で、職員もスキルアップすることができました。「わくわく発掘探検隊」や「こども映画上映会」では、参加されたお子様方の笑顔に癒されました。



わくわく発掘探検隊



4月から始まる令和8年度も、よろしくお申し込み申し上げます。



# 縄文時代

65号の旧石器時代につづき、  
本号では縄文時代を取り上げます。



## 縄文時代とは

縄文時代は、約1万6500年前から約2400年前まで続いたとされる、水田稲作を本格的に開始する弥生時代の前の時代です。氷河期が終わりを迎え、温暖な気候になったことで、食用にできる植物が豊富に採取できるようになりました。大型動物は絶滅し、主な狩猟対象は移動範囲が狭い中・小型の動物に変わります。一定の範囲で安定した生活できるようになったことで、人々は「竪穴住居」をつくり生活するようになります。生活の中で「土器」を使用して食料を煮炊きしたり、貯蔵したりするようになります。森の中で動き回る動物を狩るために「弓矢」を開発するなど、生活に便利な道具を編み出しました。

この時代の象徴である「縄文土器」は、縄目の文様が施されているのが名前の由来です。縄目以外にも、撚り紐を棒に巻き付けたものを回転させて付けた「撚糸文」や、竹やイネ科の植物を使った「竹管文」など、様々な文様があります。土器に施された文様には、当時の人々の精神性が表れており、時期や地域によって様々な違いが見られます。土器の形と文様は、時期や地域性を示す指標になっています。

縄文時代の人々は自然を崇拝し共生する価値観をもっており、「土偶」や「土版」、「石棒」などを使って、儀式を行い、祈りをささげていました。全てものにカミや精霊など、見えぬ何かが宿しているとする価値観を持っていたようです。

	16,500年前～	11,500年前～	7,200年前～	5,500年前～	4,700年前～	3,400年前～	2,400年前～
旧石器時代	草創紀	早期	前期	中期	後期	晩期	弥生時代
氷河期 狩猟中心の 遊動生活	最古の土器 半定住生活 旧石器時代との 移り変わり	竪穴住居が 広まる (定住生活) 完新世へ移行	温暖化の進行 大規模な海面上昇 (縄文海進) 貝塚の発達 (※郡山には存在しない)	人口の増加 大規模な環状集落 の隆盛 縄文時代の最盛期	気候の冷涼化 人口の減少 集落の小規模化 配石遺構の増加	九州では水田が つくられる 東北では「亀ヶ岡 文化」が発達	稲作が発達、 農耕社会への移行 金属器の使用 階層化が進む

※年代については諸説あります

## 郡山の縄文時代



曲木沢遺跡28号住居  
大人数を収容できる巨大住居。集会や儀式に使用していたと考えられる。

後期から晩期にかけては、四十内遺跡(逢瀬町)、滝ノ口遺跡(熱海町)、山ノ神遺跡(湖南町)などの遺跡が確認されています。西田町の町B遺跡では埋甕や集石遺構など、当時の信仰に関わる遺構が見つっています。

市内には約370か所の縄文時代の遺跡が所在しており、早期以降の遺跡が確認されています。早期の代表的な遺跡には、大槻八頭遺跡(大槻町)などがあり、小規模な集落が営まれていました。そのあと河川の流域を中心に集落が作られるようになり、環境が安定した中期には上納豆内遺跡(逢瀬町)や曲木沢遺跡(西田町)など、多くの集落遺跡が確認されています。



町B遺跡20号埋甕出土状況  
中からは幼児の歯が見つっています。

## 食料保存の籠？ 新田B遺跡



新田B遺跡30号土坑遺物出土状況  
貯蔵穴から炭化した編み物が見つっています。

新田B遺跡は、熱海町中山字米ノ倉・北ノ城に所在し、JR磐越西線中山宿駅から北西に約0.7kmの位置にあります。この遺跡からは、縄文時代早期から晩期の幅広い時期の土器が出土しています。北西部にある縄文時代早期の貯蔵穴から、断面が丸い植物繊維を複雑に編み込んで作られている籠のような編み物が発見されています。

貯蔵の道具として、土器は密閉性に優れており、液体などを入れることが出来ませんが、重いので長距離運搬には不便です。それに対し籠は軽く柔軟性があるため、長距離での運搬に適しています。同じ穴からは当時の植物が炭化したものが5点ほど出土しており、この籠は食用の植物を入れていたと考えられています。

## ハート形土偶 荒小路遺跡

荒小路遺跡は、田村町谷田川字荒小路の谷田川南岸に位置する遺跡です。縄文時代後期の集落遺跡で、竪穴住居や埋甕、配石遺構などが確認されています。この遺跡で見つかったものに、「ハート形土偶」があります。ハート形土偶は縄文時代後期の土偶で、顔がハートのような形をしていることから名づけられました。関東地方から東北地方南部にかけて分布し、特に阿武隈高地周辺で盛んに作られました。

荒小路遺跡のハート形土偶は後期前葉に造られたもので、薄い顔、張り出した腕、細身の長い胴、大きく開いたどっしりとした下半身が特徴です。腕は欠けた状態で見つかりました。身体にはこの時期の土器にみられる特徴的な文様が描かれています。

この土偶は2009年にイギリス大英博物館で開催された「THE POWER OF DOGU」に出展されました。大安場史跡公園には精巧なレプリカが展示してありますので、ぜひご覧ください。

※実物は福島県文化財センター白河館(まほろん)所蔵です。



荒小路遺跡出土ハート形土偶  
福島県文化財センター白河館提供